

# 1歳後半から2歳半に至る自己の発達（1）

～ 母子相互作用場面での「述べる」行動に着目して ～

瀬野由衣  
(愛知県立大学)

【問題】本研究では、一組の母子の相互作用場面を縦断的に観察することを通して、1歳後半から2歳半に至る自己の発達の様相を捉えることを目的とする。とりわけ、自由遊び場面での様子を子どもの「述べる」行動(久保田, 1993), 自他関係の特徴(木下, 2008 参照), 遊び方の特徴という三つの側面から検討し、発話に現れる自己の様相が自他関係並びに遊び方の変化とどのように関連するのかを考察する。各側面はこれまで別個に検討されてきたため、これらを統合し、相互関係を考察することが本研究全体のねらいである。今回の発表では、1歳後半から2歳半までの児の「述べる」行動の変化を2歳代に飛躍的に発達を遂げる対比的認識に焦点を当てて検討する。

【方法】家庭で養育されている第二子男児(1児)を児が1歳10カ月時点から2歳6カ月までの間、毎月1日、筆者が自宅に出向き、観察を行った(風邪のため、2回休み有り)。具体的には、午前中の約1時間～1時間半、母子でその時期の関心に沿って自由に遊んでもらい、その様子をDVD録画した。録画以外の事例についてもエピソードとして記録に留めた。また、母親からは児の最近の様子や発達状況について自由に話してもらった。以下の分析は、DVD録画による発話記録を基にしている。

【結果と考察】久保田(1993)は、子どもの「述べる行動」に着目し、2歳半に至る過程で、子どもがどのように世界を分節化していくようになるのかを整理している。「述べる」行動とは、“自分が見たことを横に並んでいる人が存在する公的な場で言うこと”と定義される、自己言及性を伴う行動(久保田, 1993)を指すもので、要するに発話である。以下では、本研究で対象とする1歳9カ月前後、2歳頃、2歳半前後という3期の発話から対比的認識に関わるものを抽出し、その特徴を考察する。

|         | 久保田(1993)による整理<br>(対比的認識に関わる事柄を抽出)   | 1児において観察された対比的認識   |
|---------|--|--|
| 1歳9カ月前後 | ・いろいろの関係判断を表す言葉の理解と使用(あったとないが組になってまとまる, 「もっと」「全部」)   | ・(1;10)比較の萌芽(「オオキイ」(弟の足を見た後に自分の足を見て, さらに筆者の足を見て)。「ツチヨ」(いっしょ)(筆者のカメラと自分のオモチャのカメラを見て)  |
| 2歳頃から   | ・いろいろの関係判断を表す言葉(「同じ」, 形, 色についてコレトコレオンナジネという。「反対」裏返しや逆向きのものについて)。それ以外にも, 「大小」(オーキイ, チーサイ)   | ・(2;0)はっきりとした比較(大きい○と小さい○を見比べながら, 「オッキイ」-「チツチャイ」。<br>・(2;2)色を探したり, 色の名前, 形を確認する(部屋の中にあるモノの色や形を言語化, 絵本の中で○, △, □を見つけ, 手で形をなぞりながら, □を「シカク」, △を「シカク」という(三角はどれ?と聞けば正しく答える)<br>・(2;3)二つ以上のモノの違いや性質(状態)を対比的に述べる(自分のオモチャのカメラと筆者の本物のカメラを「イッショ」と何度も言い, 「コッチ(自分のカメラ) ミエン コッチ(筆者のカメラ) ミエル」と言い, そのことを「オモシロイ」と言う。自分の靴下と他の人たちの靴下を見比べ, 色や長さの違いに言及。比較の対象には自分も含まれる) |
| 2歳半前後から | ・二重否定(何々でないという否定を否定によってもとにもどす(「こっちは開かないの?」))<br>・理由・原因(何々だからという言い方で行為の理由や原因を示すようになる)。問責と抗弁 | ・(2;5)“こうしたら, こうなる”に関心が強い(カメラのズームボタンに関心を持ち, 「コレー チイサクナッテルー」, ズームボタンを操作してほしくて「オッキュー, チツサクー」と呼びかける)<br>・(2;5)責任の帰属(「ゴメーン Iガタオシター」と自分の責任に言及。「アーK(弟)ダメ」と弟を責める)   |

久保田の整理と同様に、1歳後半から対比的認識の萌芽が現れ、2歳代に大小のみならず色や形について言及する姿が見られた。カメラへの関心は当初より見られたが、2歳頃には二つのカメラを比べて「コッチ ミエル コッチ ミエン」と見えを対比する姿、自他の靴下の長さや色の違いを比較し言及する姿が見られるようになった。対比的認識の深化は、2歳半頃のカメラのズームボタンへの関心につながる、原因や因果関係に関する言及に発展した。次回の発表では、上記の変化が対他関係とどのように関わっているのかを遊び場面での様子の分析によって検討する。